

1 学校経営計画・教育目標

令和5年度 東京都立府中工科高等学校 学校経営計画

目指す学校

くしなやか（レジリエンス）で、真心（シンシリティ）を持って対応できる

有為な技能者（エキスパート）を育成する面倒見の良い学校

【教育目標】 産業構造の変化や知識基盤社会の到来などに柔軟に対応し、社会の一員として自覚ある態度を養い、高い志をもって自己の目標実現に向けた邁進ができるよう以下の人材育成を目指す。 1 レジリエンス 勤労観と責任感をもち、しなやかな感性のある技能者 2 シンシリティ 互いの人格を尊重し、規範意識や真心をもった技能者 3 エキスパート 柔軟な発想で、社会の発展に貢献できる有為な技能者	【教育方針】 1 全教職員の共通理解の下、人権尊重の精神を醸成する。 2 主体的な学びを通して、自ら考え、物事に柔軟に対応できる能力を養い、基礎・基本的な学力の定着を図る。 3 問題解決型の学習（PBL）を通して、工業分野の基礎的・基本的な知識、技術及び技能習得の定着を図る。 4 我が国の伝統技術・文化活動に対する理解を促し、真心を大切にした対応、規範意識、倫理観等を醸成する。 5 健康維持とともに、不安や悩み等に対するレジリエンス（心の回復力）を養い、チャレンジ精神を育成する。	【目指すべき生徒像の将来像】 1 資格等を有し、即戦力として社会に求められる人材 2 ものづくりを通して、人の役に立つことの喜びを知り、真心を込めて、製品やシステムを生産できる人材 3 高い志を有した技術者・開発者チームの一員として、仲間と協働し、従事者等をまとめることができる人材 4 社会インフラの維持や地域産業の発展に貢献し、多摩地域をはじめ、東京の技術革新や成長を支えるDX人材 5 真心をもって人と接し、困難な課題に対して、誠実な姿勢と柔軟な発想や技術で次代を切り拓く有意な人材
※ レジリエンスとは、回復力、適応力などを指す心理学用語 シンシリティとは、誠実、真面目など、真心をさす言葉	【スクールミッション】 卒業時には即戦力として社会に求められる人材を育成します。現場技術者をまとめる力、多摩地域における社会インフラの維持や地域発展に貢献できる技術や能力、自ら考え、物事に柔軟に対応できる能力、技術の進展に伴い、柔軟で独創的なアイデアをもった技術者を育成します。	
【スクールポリシー】 1 グラデュエーション・ポリシー 分かることの「楽しみ」、できた時の「やりがい」、学び続ける「喜び」、柔軟に対応する「適応力」を育み、新しい価値の創出や課題の解決に貢献できる力を育成します。 2 カリキュラム・ポリシー 基礎的・基本的な知識、技術及び技能を身に付け、互いの人格を尊重し、仲間と協働してしなやかな感性を育み、規範意識や真心をもって人と接し、高い志をもって自己の目標実現に向けた邁進ができるよう、創造的な教育活動を展開します。 3 アドミッション・ポリシー 工業の専門的分野に強い関心を持ち、技能者としての資質や能力を身に付けるべく、真心をもって人と接し、誠実な姿勢と柔軟な発想や技術を主体的に学び、高い志をもって自己の目標実現に向けた邁進ができる生徒を求めます。		
【本校の期待する生徒の姿】 本校は、しなやか（レジリエンス）で、真心（シンシリティ）をもって対応できる有為な技能者（エキスパート）を育成する面倒見の良い学校として、ものづくりやスポーツを通して、健康維持とともに、不安や悩み等に対する心の回復力を養い、チャレンジ精神を養うことを目指しています。 1 「ものづくり」が好きで、本校の学習に興味・関心を持ち、各種の資格取得等に意欲をもって取り組む生徒 ・ 機械科では、機械加工や機械の設計・製図に関する技術を学びたい生徒 ・ 電気科では、電気の発生から安全に利用できるまでの電気技術を学びたい生徒 ・ 情報技術科では、ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク技術を学びたい生徒 ・ 工業技術科では、機械及び電気・情報に関する知識に興味があり、様々な技術を学びたい生徒 2 部活動や生徒会活動で熱心に活動し、本校入学後もそれらの活動を継続する意志が強い生徒 3 学校や社会の一員として、「時を守り、場を清め、礼を尽くす」ことや、自分から挨拶ができるなど、約束やルールを守る生徒 ※ 特に推薦選抜においては、入学後も上記項目の全てにおいてリーダーとしての役割を果たすことに意欲をもつ生徒が望ましい。 ※ 「文化・スポーツ等特別推薦」においては、入学後も硬式野球部の活動に意欲的に取り組む生徒が望ましい。		

【 育成すべき資質・能力 】			
全ての教科・科目に取り組み、特別活動や道徳・総合的な探究の時間、部活動を通して、分かることの「楽しみ」、できた時の「やりがい」、学び続ける「喜び」、柔軟に対応する「適応力」を育成する。 ア 志・学びに向かう力(しなやかさ・真心) ウ 知識・技能1(基礎・基本的な学力) カ 思考力・判断力・表現力等1(課題発見力) イ 志・学びに向かう力(主体的な学び) エ 知識・技能2(工業分野の知識、技術及び技能) キ 思考力・判断力・表現力等2(課題解決力) オ 知識・技能3(コミュニケーション能力等) ク 思考力・判断力・表現力等3(独創性・協働性)			
中期的な目標 令和2・6年まで ＊産業構造の変化や知識基盤社会の到来などに対応し、社会の一員として自覚ある態度を意識した教育活動を行う。 令和1・11年まで ＊Society5.0を支える工業高校の実現に向けた戦略プロジェクト「Next Kogyo START Project」に基づく教育活動を展開する。 ＊しなやか(レジリエンス)で、真心(シンシリティ)をもって対応できる有為な技能者(エキスパート)を育成する。 令和6年まで ＊人権尊重教育、工業教育、国際理解教育、防災教育、特別支援教育等、民間等外部人材等を活用するなどして、更なる教育活動の充実を図る。			
	取組目標	方 策	今年度の重点目標
中 期 的 目 標 と 方 策	1 基礎学力を確実に定着させる教育の推進(学習指導)	(1) 習熟度別授業や少人数授業を導入し、「考えさせる」授業を推進する。 (2) 授業内容の改善のため、指導の工夫や校内研修体制を確立する。 (3) 個に応じた指導を一層推進し学力向上、技術向上を進める。	① 学習指導(自分で「考えさせる」授業の推進) ・文部科学省教育課程実践検証協力校として、工科高校の特色である実験・実習を重視し、体験的な学習を通して、実践的な技術・技能に対する興味・関心を高めさせ、高度な資格取得に挑戦するなど、学習意欲と能力の向上を図り、各科の特色化・ものづくり人材育成教育を推進する。 ・アクティブ・ラーニング(AL)や課題解決型学習(PBL)を実施し、主体的で対話的な深い学びを通して、探究する学習意欲につなげ、学力の定着を図る。 ・授業参観をはじめ、教科の枠を超えて相互授業見学を推進し、授業後の協議や校内研修等で得られた改善点を受けとめ、生徒に還元することで、教員相互の授業力の向上を図る。 ・生徒による授業評価アンケートを活用し、授業内容や指導方法の改善を図り、学力スタンダード(基礎)に対応した年間授業計画を作成し、明確な目標に基づいた指導や観点別評価を行う。 ・授業環境を整え、習熟度別や少人数授業、補習や講習会等を活用し、生徒一人ひとりに応じた指導を充実させる。

中 期 的 目 標 と 方 策	2 規律ある生活指導と健全育成の充実	(1) 「形から入りて心に至る」の指導を継続し、社会に出る心構えとしての意識向上を図る。 (2) 基本的な生活習慣の育成を推進する。 (3) 部活動や学校行事を活性化させる。 (4) いじめ防止等カウンセリング機能を充実させる。 (5) 防災教育や環境教育等を推進し、生徒の安全と健康に関する指導を徹底する。	② 生活指導（規律ある学校生活の向上「形から入りて心に至る」） ・人権を尊重した教育活動を通して、互いの人格を尊重し、仲間と協働してしなやかな感性を育み、規範意識や真心をもって人と接することができるよう指導する。 ・「時を守り、場を清め、礼を尽くす」ことや、自分から挨拶ができるなど、約束やルールを守ることを意識させた指導を展開し、自立した社会人としての基本的な生活習慣の確立を図る。特に、遅刻未然防止の指導については徹底を図り、中途退学者等の減少に向けて継続する。 ・TPOに応じた言動や、服装・身だしなみ指導を図り、規律のある学校生活を充実させる。 ・美化・清掃活動を通して、心落ち着く教室環境を育む5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）教育を展開し、社会生活における基本的なルールやマナーを体得できるよう指導を行う。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組むため、学校いじめ対策委員会を活用し、学校全体で情報共有を図るとともに「いじめを絶対に見逃さない、許さない」教育を徹底する。 ・避難訓練や防災教育等を通して、生徒自らが自己の安全や健康を確保できるよう指導するとともに、地域社会の一員として共助の心を育成する。
	3 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進（進路指導）（資格取得推進）	(1) 機械検査技能士、電気工事士、情報処理活用能力検定などの資格を卒業までに各生徒が5つ以上取得できるよう、各科を中心に積極的に取り組んでいく。 (2) 系統的な指導によるキャリア教育を図り、インターンシップ等就業体験を充実させる。 (3) 学校幹旋による希望進路実現100%を維持する。 (4) 教育課程の改善、授業評価のあり方、キャリア教育の推進を検討し中途退学者を減少させる。	③ 進路指導（希望進路の達成） ・技能スタンダードを定着させ、ものづくり人材育成のための教育プログラムを推進する。 ・「卒業までに一人5つ以上の資格取得指導の取組」を具体化させる。 ・生徒の希望進路実現を図るため、資格取得を推進できるよう授業等を工夫し、放課後や長期休業中の補習・補講を充実させる。 ・望ましい勤労観や職業観を育成するために、3年間を見通して作成した系統的な進路指導計画を実施し、キャリア教育の充実を図る。また、三者面談の早期から実施することで、生徒・保護者との連携を深めるなどして、進路相談を充実させる。 ・就職指導や進学指導の一層の推進を図るために学年、学科、教科の連携を深め、職業適性検査・進路講話や先輩の話を聞く会等を実施し、進路決定に向けて多角的・具体的な意識付けを図る
	4 地域や企業等と連携した教育の推進（地域連携）	(1) 企業及び企業団体と連携し社会体験等を推進する。 (2) 地域と連携し奉仕体験活動を推進する。 (3) 中学校訪問等を行い、工業技術教育に関心のある応募者を増加させる。 (4) 府中市及び近隣小・中学校との連携を密にする。	④ 地域連携 ・キャリア教育を推進するため、東京商工会議所、むさし府中商工会議所その他関係企業団体等との連携を図る。 ・2学年全生徒によるインターンシップや各科による企業見学等を実施し、社会人意識の向上を図る。 ・むさし府中商工会議所及びサポーター企業と連携し、その活用を図ることで、本校在籍生徒だけでなく卒業生に対しても広く就職相談やキャリア教育の推進を図る。

中期 的 目 標 と 方 策	5 健康づくりの推進	(1) 健康で基礎体力のある生徒を育成する。 (2) 薬物防止教室など関係機関と連携する。 (3) 生徒の心身ともに健康な意識を高める研修を実施する。	⑤ 健康づくりの推進 ・全校生徒の体力向上を計画的・組織的に推進するために、学校の教育活動において工夫をし、新体力テストすべての項目での数値向上を図る。(体力向上)。 ・生活指導部、学年及び部活動顧問が連携して部活動加入を促進し、各部活動の活性化を図る。 ・部活動の方針等を保護者に説明し、暴力、体罰の撲滅を図る。 ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとして、ボランティア活動による地域貢献活動の充実や、茶道等の日本の伝統文化の理解教育を推進する。 ・生徒が自主的に健康に生活できる意識を育てるため、生活環境を整え食育の充実を図る。 ・スクールカウンセラーの積極的な活用を生徒・保護者に周知し、活用を図るとともに、特別支援教育や相談体制の充実を図り、生徒の安全で安心な学校生活を確保する。 ・組織的な相談体制を充実させ、生徒の心身の悩みに対応するとともにいじめ撲滅を図り、自他の生命の大切さを実感させる教育を推進することにより自殺の未然防止を図る。
	6 広報活動・募集対策の推進	(1) ホームページの充実を図り、広く都民に本校の教育活動を発信していく。 (2) (2) 中学校訪問などのPR活動をより組織的に展開する。 (3) 学校説明会、学校見学会、授業公開、体験入部、体験入学等を充実させる。 (4) 公開講座や施設開放を推進する。 (5) 高度な資格取得を推進し結果数値を公表するなどして、本校の特色ある教育活動実績を広く発信する。	⑥ 募集・広報活動の積極的な展開 (HP等学校情報発信の強化) ・魅力あるホームページを作成し、本校の教育理念や活動内容、募集案内等を発信する。 ・府中工科高校における教育活動や生徒の学習成果などの「見える化」を推進するため、校舎前面の横断幕や校門横の掲示板を活用するなどして、地域に情報提供する。 ・学校ホームページの更新を随時行い、本校の教育活動をタイムリーに発信し、中学生やその保護者を、地域の方々、関係企業に本校に対する興味・関心および理解と信頼を得る。 ・府中市教育委員会及び近隣中学校等と連携を図り、中学校教員や中学生保護者に工業高校の理解推進を図る。
	7 自律的な学校経営の推進 (組織的な体制)	(1) 学校運営を組織的に行うため、より一層の適正化を図る。 (2) 校内コンピュータネットワークの構築を維持する。 (3) ICT計画推進のため校内研修を推進する。 (4) 授業力向上、学力向上のために各教科が中心となり組織的に対応する。	⑦ 学校経営について (連携と育成、体制の確立) ・西部学校経営支援センターと連携を密にし、職務の効率化を図り学校経営の基盤を強化する。 ・経営企画室職員の積極的な学校経営に対する参画を促し、教育に対する理解を深めさせる。 ・OJTを活用して各職層の人材育成を図り、課題解決に取り組む活気ある校内体制を構築する。 ・教科横断的な体制を構築し、在学中に取得できる資格の取得、教員の技術力向上に取り組む。 ・生徒や保護者アンケートに基づいた「ニーズや期待に応える学校経営」を浸透させていく。 ・管理職が率先してライフ・ワーク・バランスを示し、全教職員の働き方改革を推進する。

(2) 令和4年度の数値目標の実績

数値目標	令和4年度	令和5年度 目標	令和5年度 実績
① 就職内定率	100%	100%	
② 大学進学率	95%	95%	
③ サポーター企業の活用	10社	10社	
④ 資格取得者数			
ア 基礎製図検定	ア 33名	ア 40名	
イ 機械検査	イ 21名	イ 25名	
ウ 第二種電気工事士	ウ 128名	ウ 100名	
エ 第一種電気工事士	エ 21名	エ 20名	
オ ITパスポート	オ 4名	オ 5名	
カ 工事担任者(DD三種)	カ 6名	カ 40名	
⑤ 国家資格等 5つ以上 資格獲得者数(卒業時)	116名	120名	
⑥ 部活動加入率	82.3%	85%	
⑦ 遅刻者数	2264	2000	
⑧ 特別指導件数	5件	5件	
⑨ ホームページ更新	週3.6回	週3回	
⑩ 図書館貸出冊数	2658冊	2500冊	
⑪ 学校説明会参加人数 (中学生・保護者合計)	830名	900名	
⑫ 入学者選抜応募倍率			
ア 推薦入学	ア 1.40倍	ア 1.5倍	
イ 学力検査	イ 0.96倍	イ 1.1倍	
⑬ 退学者の減少(対全生徒比)	1.4%	0.4%	
⑭ 学校満足度(肯定的回答)			
ア 生徒	ア 70.4%	ア 80%	
イ 保護者	イ 93.5%	イ 80%	
⑮ 服務事故・いじめゼロ	0	0	
⑯ 月残業60時間超	5名	5名	